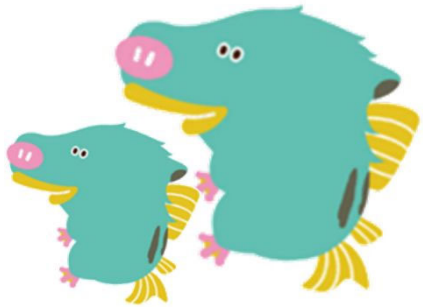
資料2



矢作川流域圏懇談会のゆるキャラ
「はぎぼう」

第55回　海部会WG

第14期の活動成果と今後の活動計画

次第

１．今期の活動実績

２．海部会の活動目標

３．今後の活動内容

４．海部会の活動スケジュール

1. 今期の活動実績（ R5.4.1～R6.3.31 ）

《第14期前半の当初目標（R5.4.1～R6.3.31） 》

「豊かな海」や「海と人との絆」の再生に向けた様々な取り組みについて情報共有・意見交換を行うとともに、流域圏全体に関わるごみ問題や土砂の問題についても、今後外部に発信していくことを念頭において、他部会や外部団体との連携をはかる。

＜テーマ＞	＜当初目標＞
豊かな海の再生に向けた取り組み	○ 海の栄養塩不足に関する対策（干潟・浅場造成や矢作川浄化センターでの試験運用など）について、途中経過観察状況の情報共有および意見交換を行う。 ○ 引き続き、アサリやノリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。 ○ 豊川の自然再生事業を見学し、矢作川流域での自然再生に活用できないか意見交換を行う。
海と人との絆再生	○ 海の生態系と流域との関係性の理解を深め、上下流連携を推進していく。 ○ 三河湾大感謝祭などの地域イベントを通じて海と人との絆の重要性を啓発する。
ごみの問題	○ 三河湾だけではなくより広い範囲でごみ問題に関わる活動との連携を継続していくとともに、矢作川流域圏のごみ問題に関する状況等の情報交換を行う。
土砂の問題	○ 河川の治水事業や干潟・浅場造成事業の途中経過の状況を把握するとともに他部会との情報共有および意見交換を行う。

1.今期の活動実績（ R5.4.1～R6.3.31 ）

豊川自然再生について（テーマ①豊かな海の再生に向けた取り組み）

○令和4年度に矢作川自然再生事業の一環でもある干潟造成箇所やヨシ原再生箇所の見学を実施した。

○第52回海部会（令和５年6月5日）にて、豊川自然再生事業の干潟造成箇所やヨシ原再生箇所の現地視察を行い、他流域での取り組みについて知見を広げるとともに会議室にて意見交換・情報共有を実施した。

【意見交換の内容を一部紹介】

・豊川河口は、伊勢・三河湾の重要な場所となっており、河口域に干潟を造成するということは、稚貝の生育の場を広げるということで非常に意味がある。

・三河湾は栄養塩不足になっている。栄養塩管理と干潟の造成・保全をハイブリッドで進めていく必要がある。

豊川河口付近の清須河川敷公園にて集合

豊川河口の干潟・ヨシ原の説明の様子

会議室での意見交換の様子

1.今期の活動実績（ R5.4.1～R6.3.31 ）

流域圏担い手づくり事例集（海版）について（テーマ②海と人との絆再生・③ごみの問題）

○山部会で作成している流域圏担い手づくり事例集を、今年度は、海部会とコラボし三河湾だけでなく伊勢湾を含むより広い範囲を対象に活動されている方を取材し、海の現状や課題等を本事例集で整理・発信していきたいとの意見が挙がった。

ダム堆砂分級工法について（テーマ④土砂の問題）

○ダム堆砂分級工法の現状や今後の展望について、青木座長より情報提供をいただいた。

○矢作ダムでの土砂分級実験の見学会（ 主催：一般社団法人 ダム水源地土砂対策技術研究会）が11月14日（火）・15日（水）に開催される。後日、WGにおいて見学会の報告および意見交換会の場を作る予定である。

【ダム堆砂分級工法について（参考）】

・既設ダムの機能を半永久的に維持していくための対策として、ダム堆砂の掘削や浚渫等が最も一般的な堆砂対策である。

・これらのダム堆砂の品質を高め、有効利用先の拡大や下流還元量を増加させることを目的に、ダム堆砂の土砂分級技術の導入を検討している。

・海の浚渫工事や保安工事をやっている会社が協力して土砂の処理に関する技術開発を進めている。

・技術開発の一つとして、細粒を取り除く方法を開発しており、それをダム砂に活用することを試行している。それにプラスして、土砂を分級する技術を開発しており、矢作ダムの砂を使って分級システムの試行を行っている。

ダム堆砂分級工法のパンフレット（表紙）

2.海部会の活動目標

《第14期後半の活動目標（R6.4.1～R6.11.30）》

「豊かな海」や「海と人との絆」の再生に向けた様々な取り組みについて情報共有・意見交換を行うとともに、流域圏全体に関わるごみ問題や土砂の問題についても、今後外部に発信していくことを念頭において、他部会や外部団体との連携をはかる。

＜テーマ＞	＜活動目標＞
豊かな海の再生に向けた取り組み	○ 海の栄養塩不足に関する対策（干潟・浅場造成や矢作川浄化センターでの試験運用など）について、途中経過観察状況の情報共有および意見交換を行う。 ○ 引き続き、アサリやノリをはじめとする三河湾の生物資源回復に向けた具体的な取り組みに関する意見交換を行う。 ○ 豊川の自然再生事業を見学し、矢作川流域での自然再生に活用できないか意見交換を行う。
海と人との絆再生	○ 海の生態系と流域との関係性の理解を深め、上下流連携を推進していく。 （事例集の作成） ○ 三河湾大感謝祭などの地域イベントを通じて海と人との絆の重要性を啓発する。
ごみの問題	○ 三河湾だけではなくより広い範囲でごみ問題に関わる活動との連携を継続していくとともに、矢作川流域圏のごみ問題に関する状況等の情報交換を行う。 （事例集の作成）
土砂の問題	○ 河川の治水事業や干潟・浅場造成事業の途中経過の状況を把握するとともに他部会との情報共有および意見交換を行う。（ダム堆砂分級工法）

4. 海部会の活動スケジュール

海部会の活動として、当面全体会議までのWG 2回、まとめの会 1回（全3回）を予定している。

	活動	日時	内容・場所
第14期後半	第54回ＷＧ、事例集交流会	7月6日（土）～ 7月7日（日）	鳥羽市
	第65回ＷＧ	9月11日(水)	・今期の活動成果と今度の活動計画 ・伊勢・三河湾の貧栄養化について ・ダム砂の分級技術の開発と試験水の栄養塩濃度の分析
	第16回海部会まとめの会（10月）	未定	未定